

ステーションを整備し、十二月の開所を目指す。

水素は当面の間、県内の事業所から調達する。将来的には、F H 2 Rで製造した再生可能エネルギー由来の水素を始める。

伊達重機は水素ステーションの整備に先駆け、東京五輪で使われた燃料電池車「M I R A I」五十台を購入し、リースを始めた。

燃料電池車のリース始める

伊達重機は水素ステーションの整備に先駆け、東京五輪で使われた燃料電池車「M I R A I」五十台を購入し、リースを始めた。

移動式 今春供用開始へ

福島市のアポロガスグループ会社「ふくしまハイドロサプライ」は移動式水素ステーションの今春の供用開始を目指し、浪江町と調整している。

移動式は、トラック

に設置している充填（じゅうてい）装置で、F C Vに水素を供給する。同社は二〇一八（平成三十）年四月から福島市、郡山市の各拠点

で稼働している。担当者は「浪江町に水素ステーションを設け、復興に貢献していきたい」と設置の意義を説明している。

浪江町は事業者への補助制度「町水素エネルギー普及拡大事業補助金」を設けた。国、県の補助金を除く事業者負担の二分の一を助成する仕組みで、上限は五千万円。

町議会の臨時会が二七日開かれ、二〇五〇年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボン」の推進費として、関連予算三千九百万円が可決された。

事業者に補助金 上限500万円

浪江町は事業者への補助制度「町水素エネルギー普及拡大事業補助金」を設けた。国、県の補助金を除く事業者負担の二分の一を助成する仕組みで、上限は五千万円。

移動式も運用へ

浪江でアポログループ

アポログループのふくしまハイドロサプライ（福島市）は新年度、浪江町で移動式の水素ステーションの運用開始を検討している。県によると、移動式の水素ステーションは現在、福島、郡山両市で運用されている。